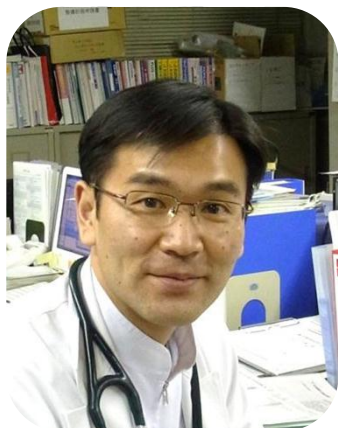




マイコプラズマ肺炎流行中

笠井昭吾（内科・呼吸器内科医長）

昨年 11 月、天皇陛下が御入院され、マイコプラズマ肺炎と病名が発表されたのを記憶されている方も多いと思います。2011 年度は、例年になくマイコプラズマ肺炎が流行しています。



症状はどのような？

もっとも特徴的な症状は激しい咳で、ほとんどすべての患者さんで見られ、38～39℃の高熱を伴います。すべての年齢でかかる可能性はありますが、かかりやすいのは幼児、学童、青年です。図は過去 5 年間の年齢別報告数ですが、20 歳以上は 10%程度で、20 歳以下が 90%をしめています。

どのように診断するの？

通常肺炎の場合、喀痰検査を行い原因菌を特定するのですが、マイコプラズマは特殊な培養検査が必要で時間がかかります（1～4 週間）。血液検査で抗体を測定する方法もありますが、これも確実とは言えません。比較的若い患者さんで、激しい咳と高熱があり、レントゲン検査で肺炎があり、肝機能障害を伴っている場合（約 30%程度で見られます）や、肺炎で治療しているのに治らない場合にはマイコプラズマ肺炎を考えます。

治療の方法

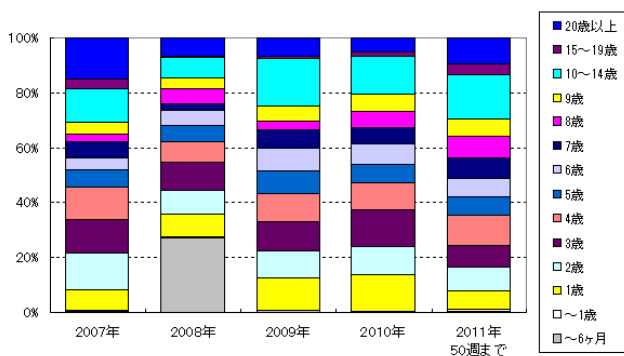
マイコプラズマは細菌の一種ですが、一般の細菌と違い細胞壁を持っていません。そのため細胞壁を障害して効果を発揮する抗菌剤は無効です。セフェム系やペニシリン系など（ベータ・ラクタム系抗菌剤と呼びます）、よく処方される抗菌剤は無効で、マクロライド系、テトラサイクリン系、ニューキノロン系抗菌剤が有効です。

予防のポイント

インフルエンザのような予防接種はありません。感染を広げないため大事なのは、咳エチケットと手洗いです。咳があるときはマスクを着用するようにしましょう。家族内や小集団内で発生することから、周囲にマイコプラズマ肺炎と診断された人がいて、頑固な咳や発熱がある場合は病院を受診してください。また、セフェム系やペニシリン系抗菌剤が効かない場合は医師に相談してみてください。

マイコプラズマ肺炎とは？

マイコプラズマ肺炎は、発熱・咳・倦怠感・頭痛などを主な症状とする呼吸器感染症です。マイコプラズマ肺炎にかかった人の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌によって人から人へ感染（飛沫感染）します。家庭、保育施設、学校など比較的閉鎖的な環境で、濃厚な接触により感染します。ひと昔前までは 4 年ごとのオリンピックの年に流行が見られ、オリンピック熱とも呼ばれていましたが、最近は毎年平均的に見られるようになってきました。季節的には初秋から冬に多発する傾向があります。2011 年度は例年の 2～3 倍の発生が報告されています。



年齢別報告数の推移 (2007 年～2011 年)